4. 研究コースカリキュラム（第二主専攻科目／副専攻科目）の説明

（1）北米研究コース

【北米研究へのいざない】

本コースでは、アメリカ合衆国（以下アメリカ）とカナダ、中南米を研究対象地域とします。日本社会では、アメリカの文化や生活習慣はとても身近ですが、私たちの理解は表層的です。また、近年の沖縄の米軍基地問題のように、日米関係に大きな影響力を持つ課題も多くあります。一方、カナダはアメリカほど注目されませんが、世界に先駆け多文化主義政策を打ち出した国です。また NAFTA 新協定に加盟するメキシコは、日本にとって大切なパートナーです。北米地域を経済学、政治学、歴史学、宗教学、文化心理学、移民研究などの視点から、多面的に考察することで北米地域に関する知識を深めるだけではなく、私たちが住む日本社会を相対化してみましょう。

【北米研究コース】

- **導入科目**：北米地域について研究を深めるにあたり、具体的にどのようなテーマや方法論を選ぶかを考える、いわば「ウィンドーショッピング」的な科目です。まずは、北米地域に関する基礎知識をしっかりと学び、コア科目履修のための足場を組み立てましょう。
- **コア科目**：いよいよ北米地域に関する様々な専門知識を身につけていきます。4 つの科目群（①国際政治・経済系、②文学・思想・歴史系科目、③多文化社会系科目、④メディア・表象系科目）に分類されていますが、興味ある科目群から集中的に履修してもいいですし、複数の科目群から組み合わせて履修しても構いません。ただし卒業論文へ結びつく研究の方向性を意識しながら科目を選択することを勧めます。
- **演習科目**：担当教員の指導を受けながら、自分の研究を深めていきます。それまでの講義科目とは異なり、自主的かつ積極的な学習が求められます。なお同一担当者の演習科目を 3 年次より 2 年間履修することを勧めます。
- **卒業論文・卒業研究**（副専攻の場合は履修不可）：大学での勉学の集大成となります。先行研究のレビューおよび問題設定に示した方向性にしたがい、語学を駆使した資料収集、現地調査などで材料を得て、それを自分なりに考察・分析して結論を導くといった作業になるでしょう。他では味わえない格別の達成感となるはずです。原則として、英語での論文執筆となります。

＊北米研究コースを副専攻として選択する場合、演習、卒業論文・研究の履修は必要ありません。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう

①北米社会や文化の成り立ちを歴史的な視点から学びたい

導入科目(6 単位)	北米地域研究入門 B-1・B-2
コア科目(20 単位)	Introduction to History of USA 1・2, American Women’s History 1・2, アメリカ社会史*, Topics in American History, Issues in American Society, 北米風土論* *週 2 回開講 4 単位科目
演習(4 単位)	Seminar (North American History)1・2, もしくは Seminar (North American Studies)1・2

②北米と中南米の政治・経済関係について学びたい

導入科目(6 単位)	北米地域研究入門 A-1・A-2, ラテンアメリカ地域研究入門
コア科目(20 単位)	アメリカ政治外交 1・2, ラ米経済概論, ラ米経済特論, 国際政治史 1・2, 経済入門 1・2, 外交政策 1・2, North America in the World
演習(4 単位)	Seminar (North American Studies)1・2, もしくは演習（ラ米経済）1・2 など

③移民・マイノリティなどの視点から北米地域の多文化社会について学びたい

導入科目(6 単位)	北米地域研究入門 A-1・A-2, グローバル・ヒストリー入門
コア科目(20 単位)	American Women’s History 1・2, History of Japanese Immigration 1・2, Minority Language Education 1・2, Psychology of Discrimination, 難民とアメリカ* *週 2 回開講 4 単位科目
演習(4 単位)	Seminar (Globalization and Migration)1・2, もしくは Seminar (Qualitative Methods in Psychology) 1・2

(2) ヨーロッパ研究コース

【ヨーロッパ研究コースについて】

外国語学部生であれば、ヨーロッパに興味をもって大学での専攻を選択した人も少なくないでしょうし、今後、専攻語を学ぶ過程で必ず何らかの形でヨーロッパを意識させられることがあるでしょう。しかし、「ヨーロッパ」という言葉が表す概念や地理的境界は非常に多義的で、私たちは身近に感じられるヨーロッパのことを実はあまりよくわかっていないのです。本研究コースは、各自の専攻外国語とその言語圏のさまざまな事象、たとえば歴史、社会、芸術、政治・経済などを入り口として、それらを包括するヨーロッパへの理解を深めることを目指しています。具体的には、①ヨーロッパの特定の国または地域に関わる事象、②ヨーロッパ全域に関わる事象、③ヨーロッパの特定の国または地域間の関係や比較、④EU または EU と構成国との関係、を研究対象とします。

【ヨーロッパ研究コースの科目群】※『履修要覧』も必ず参照すること

- **導入科目**：ヨーロッパ史を通観する「ヨーロッパ史概論」は、本研究コースを第二主専攻として選択する場合は必ず履修しましょう。さらに「ヨーロッパの言語と宗教」、「ヨーロッパの現代社会」もしくは「ヨーロッパの芸術と文化」のいずれか 1 科目を履修してください。ヨーロッパについての幅広い基礎知識を身につけるとともに、2 年次以降の専門的な学習、研究の対象を絞り込んでいくことができるでしょう。
- **コア科目**：導入科目の履修を通して固まってきた各自の関心のあり方に沿って、特定の分野におけるより専門的な知識を習得することになります。効率的に科目選択するための目安として、歴史系、宗教・社会・文化系、芸術系、政治・経済系の 4 系列に分類されていますが、複数の系列から履修してもかまいません。本研究コースのコア科目は多彩で数も多く、ともすれば場当たり的な選択になりがちです。大切なのは、**常に卒業論文へと結びつく学習、研究の方向性を意識しながら科目を選択していく**ことです。
- **演習科目**：各自が設定したテーマについての調査・研究成果を報告し、教員や他の受講生との議論を通して、卒業論文・卒業研究へと発展させていく場です。他の研究コースにも言えることですが、ヨーロッパ研究の場合は特に、各自の専攻外国語と英語に加え、別のヨーロッパ系の言語が必要とされることが少なくありません。**欧文文献の精読やフィールドワークに対応できるよう、早くから語学力を鍛えておくことも重要**です。なお、同一担当者の演習科目を 3 年次より 2 年間履修することを勧めます。
- **卒業論文・卒業研究**（副専攻の場合は履修不可）：自身が履修する「演習科目」の担当教員の指導を受けながら、大学 4 年間の集大成としての研究成果を作成します。卒業論文の場合、先行研究のレビューおよび問題設定により示した方向性にしたがい、資料収集や現地調査で材料を得て、それを自分なりに考察・分析して結論へと導くといった作業になるでしょう。真剣に取り組んで完成させたときの達成感は、他では味わえない格別のものであるはずです。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう

①フランスとスペインの歴史的関係を研究したい

導入科目（6 単位）	ヨーロッパ史概論、グローバルヒストリー入門、ヨーロッパの芸術と文化
コア科目(20 単位)	西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、フランス近現代史研究、フランス語圏の歴史研究、西洋史特講（フランス史の諸問題）、西概史、西史特講 A・B、近現代スペイン研究
演習科目（4 単位）	演習（フランス語圏の歴史）1・2 あるいは演習（西史）1・2

②EU におけるドイツの役割を研究したい

導入科目（6 単位）	ヨーロッパ史概論、ヨーロッパ政治経済入門、ヨーロッパの言語と宗教
コア科目(20 単位)	ドイツ近現代史、日独環境比較研究、ヨーロッパ政治経済論、EU―法と社会、ドイツ政治研究、EU の現在と過去、日独経済比較研究、ドイツ法Ⅰ・Ⅱ、特講（EU 研究）
演習科目（4 単位）	演習（日本とヨーロッパの政治）1・2

(3) ラテンアメリカ研究コース

【ラテンアメリカ研究の魅力】

ラテンアメリカはメキシコ、キューバ、コロンビア、ペルー、ブラジル、アルゼンチンなど、中南米およびカリブの諸国からなる地域です。固有の先住民文化と、植民者・奴隷・移民がヨーロッパ、アフリカ、アジアの各地からもたらした諸文化とが混じり合い、まるで万華鏡のような独特の混淆文化を生み出しています。経済面では新興国と最貧国とが同居し、また各国内の貧富の差も大きく、成長と貧困の両方の顔をのぞかせています。他方、対外関係を見ると、米国の影響力が相対的に低下するとともに、日中韓をはじめとしたアジア太平洋地域との結びつきが強まりつつあります。そして日本について言えば、移民を通じた深いつながりを忘れることができません。遠くて近い、多様でいて共通の地域性も有するラテンアメリカは、いままでにない新たな視点、着想、思考を私たちに気付かせてくれるはずです。

【科目の構成と概要】　※主は第二主専攻として、副は副専攻として履修する場合を指します

▸**導入科目**（1 年次～；主・副とも最低 3 科目 6 単位、コース共通導入科目を含めることも可能）

本研究コースの基礎となる科目である「ラテンアメリカ地域研究入門」では、各教員が 1 回ずつそれぞれの専門分野の概況と、それを研究する意義や醍醐味について話します。受講者が特定の関心や問題意識を持つきっかけとなることを意図している科目なので、本研究コースを第二主専攻とする場合も、副専攻とする場合も、履修することを強く推奨します。「西米概史」と「ブラジル史」では、それぞれイスパニア語圏地域とブラジルの概史を理解し、専門的な学びのための土台とします（「西米概史」はイスパニア語学科の学生、「ブラジル史」はポルトガル語学科の学生は本研究コースの科目として履修できません。詳細は『履修要覧』を参照すること）。

➢　**コア科目**（2 年次～；主最低 10 科目 20 単位、副最低 5 科目 10 単位）

特定の分野ごとに専門的に学ぶための科目群です。あくまでも目安としてですが、大きく 2 つのサブカテゴリーに分けられています。人文科学系の科目では文学、言語、歴史、芸術などの分野を、社会科学系の科目では政治、経済、社会などの分野を、それぞれ学ぶことができます。また主たる対象地域でも、イスパニア語圏地域を中心とするものとブラジルを中心とするものに大半の科目は分かれます。「西米」（＝イスパノアメリカ）を冠した科目は前者に該当します。「ラ米」（＝ラテンアメリカ）を冠した科目も、その多くはイスパニア語圏に比重を置いています。こうした分野や地域を参考に、自身の興味・関心を踏まえて計画的に履修し、問題意識を明確にしていくよう心がけてください。

➢　**演習科目**（3 年次～；主のみ最低 2 科目 4 単位、副必須ではないが履修することも可能）

少人数制・参加型の専門的な授業で、大学で専門分野を極めるための中心的場であり、個別の研究テーマに深く取り組むことのできる機会となります。担当教員ごとにテーマが設定され、文献の輪読、発表、ディスカッションなどをおこなう、主体的で密度の濃い学びの場です。留学等により履修できない学期・年度が生じる場合は別ですが、そうでなければ 3 年次から 4 年次にかけて同一教員の演習を継続して履修することが基本です。複数年ゼミを継続することは、充実した卒業論文を執筆するためには必要不可欠なので、強く推奨します。　＊FGS 開講のゼミは副専攻の場合、履修できません。

➢　**卒業論文・卒業研究**（4 年次；主のみ 1 科目 6 単位、副履修不可）

自身が履修する「演習科目」の担当教員の指導を受けながら、大学 4 年間の集大成としての研究成果をまとめます。卒業論文の場合、先行研究のレビューおよび問題設定により示した方向性にしたがい、資料収集、現地調査で材料を得て、それを自分なりに考察・分析して結論へと導くといった作業になるでしょう。真剣に取り組んで完成させたときの達成感は、他では味わえない格別のものであるはずです。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう

ラテンアメリカの社会を中心に学ぶ場合（第二主専攻として履修）の一例（ポルトガル語学科生の場合）

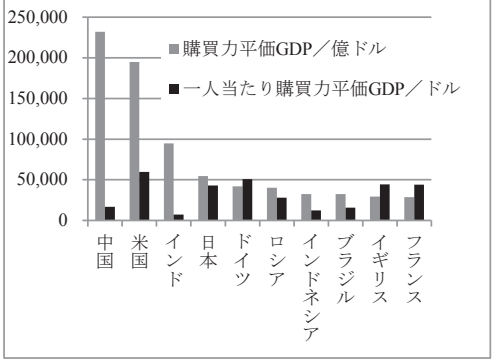
導入科目	ラテンアメリカ地域研究入門、西米概史、ラ米現代史概論
コア科目	ラ米先住民の歴史と社会、ラ米政治社会特論、ラ米経済概論、ラ米経済特論、ブラジル社会開発協力、特講ブラジル社会開発論、ブラジル社会概論、アフロ・ブラジル文化論、ブラジル文学、ブラジル現代文学特講
演習科目	演習（ラ米社会研究）1・2

(4) ロシア・ユーラシア研究コース

【注目されるロシア・ユーラシア研究】

ロシア・ユーラシア地域（旧ソ連地域）の経済発展はめざましい。中でもロシアは，2017 年の国別購買力平価 GDP は世界第 6 位（図 1），一人当たり購買力平価 GDP は BRICS 諸国の中では最も高い（図 2）［出典：IMF ホームページ（https://www.imf.org/en/publications/weo)］。こうした経済発展を背景に，その国際的重要性も増大しており，国際機関，報道機関，グローバル企業では，ロシア語やロシア・ユーラシア地域に関する知識を有した人材に対する需要がますます増大している。

図1　2017年購買力平価GDPベスト10



【ロシア・ユーラシア研究コース科目】

ロシア・ユーラシア研究コースは，こうした需要に応え，学部レベルでロシア・ユーラシア地域について総合的に学習・研究を行うことができる我が国唯一のコースである。

導入科目では，ロシア・ユーラシア地域の文化・社会の概要を学び，コア科目・演習科目における本格的な学習・研究の基礎を身に付ける。

コア科目では，ロシア・ユーラシア地域の言語・歴史・文化・芸術・政治・外交・経済・国際関係について，より深い学習・研究を行う。

演習科目では，担当教員の指導を受けながら，学生自身が研究テーマを決め，学生同士で切磋琢磨しながら主体的に研究を行い，最終的に卒業論文・卒業研究をまとめる。可能な限り同一担当者の演習科目を 3 年次より 2 年間にわたって履修することを勧める。

2019 年度卒業論文には，「ロシアの国家決裁カードシステム、ミールはいかにしてつくられ、どこへ向かうのか」「ロシアにおける貧困層のグループ、「ゴプニキ」の要素の分析」「ソ連における反宗教政策の変遷-レーニンからスターリンにかけて-」「エストニア語とロシア語の関係からみる過去のダイグロシアが現代社会に及ぼす影響-質的分析・計量テキスト分析の基づくアンケート考察-」「19 世紀ロシア文学における食文化の表象-トルストイ、ドフトエスキー、ゴンチャロフの作品を例に-」「ロシアと日本の農村派作家たちが目指したもの」などがあった。

図2　BRICS諸国の1人当たり購買力平価GDP

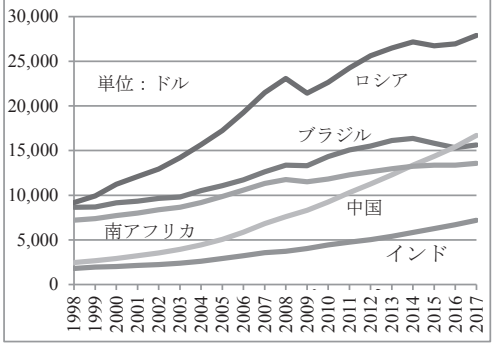


表 1　ロシア・ユーラシア研究コース科目

	履修年次	科目名
導入科目	1～4	ロシア・ユーラシア文化入門1/2
		ロシア・ユーラシア地域研究入門1/2
		中東欧地域研究入門
		中央アジア地域研究入門
		コース共通導入科目
コア科目	人文科学系科目	
	2～4	ロシア語史1/2
		ロシア史1/2
		ロシア文化史
		ロシア芸術（音楽）A/B
		ロシア演劇A
	3･4	ロシア演劇B-1/B-2
		ロシア語原書講読1/2
		現代ロシア語研究1A/1B/2A/2B
		ロシア語文献研究B-1A/B-1B
	社会科学系科目	
	2～4	ロシア政治・外交A-1/A-2/B
		ロシア・ユーラシア経済概論/経済特論
		ロシア・ユーラシアの国際関係A/B
	3･4	ロシア語文献研究A-1/A-2
演習科目	3･4	演習（ロシア語教育）1/2
		演習（ロシア語学）1/2
		演習（ロシア文化・文学）1/2
		演習（ロシア語通訳・翻訳研究）1/2
		演習（ロシア政治・外交）1/2
		演習（ロシア経済）1/2
		演習（ロシア社会）1/2
	4	卒業論文・卒業研究

【第二主専攻と副専攻】

第二主専攻と副専攻の違いは単位数の違いと卒業論文・卒業研究の有無であるが，多くの学生が，副専攻としてではなく，第二主専攻として，研究コースを選択することを期待している。

(5) 言語研究コース

【言語研究へのいざない】

私たちは日々ことば・言語によって考え、伝達し、行動しています。言語は知覚・記憶など他の心の働きと密接に関連し、人間精神の基盤をなしています。言語を話し理解する能力は、人間以外の動物にはない人間独自の能力です。また、世界の言語の多様性は驚くほどですが、その一方でどの言語にも見られる基本的な性質があり、表層的な多様性の背後には思いがけない共通性が潜んでいます。人々はどのように言語を獲得するのか、言語教育はどのように実践していくべきか、実際のコミュニケーションの場で人はどのように言語を使用しているのか、言語障害とはどういうものか、など考えたことはありますか？言語研究コースでは、以下の 3 つの視点から言語の仕組みやあり方について考えることで、その本質に迫っていきます。

①言語能力を文法、音声、意味、機能等の観点から科学的・包括的に研究する。

②日本語および諸外国語に関する経験的・記述的研究を通して言語の普遍性と多様性を深く考える。

③社会･文化･歴史･科学･教育･心理などの様々な人間の営みにおける言語の機能・役割を考察する。

【言語研究コースでの学びの流れ】

言語研究コースは「コア科目」の科目で「理論言語学」「応用言語学」「言語聴覚障害学」「翻訳・通訳科目」の 4 領域にわたり計 120 以上を提供し、皆さんの多様な言語研究への興味・関心に応えます。3・4 年次で履修する演習科目もそれら 4 つの領域で開講されます。

言語研究コースを**第二主専攻とする場合**の履修の流れ（履修モデル）を下の表に示します。モデルに縛られる必要はありませんが、自身の勉強の指針としてください。なお、言語研究コースを副専攻として選択する場合は演習科目、卒業論文・卒業研究は必要ありません。

＊詳細は『履修要覧』を参照すること

導入科目 1 年～ （6 単位）	言語の科学的な研究に必要な最も基本的な知識（音と意味を結びつける仕組みの本質、言語研究の諸分野とそこでのさまざまなアプローチ、言語の普遍性と多様性の基本的な側面、など）を学びます。
科目例	言語学概論 1･2、日本語学概説 1･2、Introduction to the Study of Language1･2、応用言語研究入門 1･2

⇩ ＊上記とあわせてコース共通導入科目（全学共通科目）の「言語と人間Ⅰ・Ⅱ」の履修を強く勧めます。

コア科目 2 年～ （20 単位）	4 領域の計 120 以上の科目でより専門的に学びます。履修は複数の領域にまたがっても構いません。			
	理論言語学	応用言語学	言語聴覚障害学	翻訳・通訳科目
	人間の言語の構造と機能を学びます。言語の仕組みの中核をなす音声、文法、意味などについての科目があります。	社会との関係の中で言語を考える領域、外国語習得・外国語教授法に関する実証的な研究領域、コンピューターによる言語情報処理を学ぶ領域などが含まれます。	成人・小児の言語・コミュニケーションの障害について学びます。	翻訳・通訳の実践的スキルとその学問的基盤を学びます。
科目例	文法論、音韻論	言語処理入門、Sociolinguistics	言語聴覚障害学概論	翻訳論、英語通訳基礎

⇩

演習科目 3 年～ （4 単位）	理論言語学	応用言語学	言語聴覚障害学	翻訳・通訳科目
	「コア科目」同様に 4 つの領域で開講されます。各自の興味・問題意識に基づいてテーマを選定し、能動的に研究をすすめます。3 年次からの履修を勧めます。			
科目例	演習（日本語学）1･2	演習（外国語教育学）1･2	演習（言語聴覚障害学）1･2	演習（通訳とフランス文化理解）1･2
卒業論文 ・卒業研究 4 年 （6 単位）	自ら選定したテーマに関して卒業論文を執筆し、言語研究コースの勉学の成果を形に残します。大学生活の集大成といえましょう。なお、副専攻の場合は履修できません。			

（6）アジア研究コース

【アジア研究コースの紹介】

本コースでは、アジア太平洋地域、東南アジア、南アジアを研究対象地域とします。日本は地理的にはアジアの一部に属しながらも、近現代史においては、アジアから時には孤立し、時には協力体制を作り上げてきました。そのような私たちの足元でありながらも複雑な関係を有しているアジアを、それぞれの国・地域の歴史・文化・社会・宗教などの視点から具体的に学んでいきます。また同時に、研究に必要な実践的方法論（フィールドワークなど）も身につけます。専攻語、第二外国語、現地に密着した地域研究の方法論を駆使して、アジアと私たちとの関わりを学んでいきましょう。

【アジア研究コース】

- **導入科目**：より具体的で専門的なアジア研究を行うための土台となる導入科目の履修を通じて、まずは基礎力を養います。アジア地域の研究を深めるにあたり、具体的にどのような地域･テーマを選ぶかを決定するのに重要な科目群となります。興味関心を幅広く持って、多様な科目を「ウィンドーショッピング」的に履修することもお勧めです。
- **コア科目**：「導入科目」で得た基礎的な知識や研究のための方法論をベースにして、「コア科目」では、より高度で専門的な授業が開講されます。各自の知的「問いかけ」に基づき、自分の興味関心のある分野を積極的に履修してください。本コースは、2 つの科目群（人文科学系科目と社会科学系科目）に分類されていますが、興味ある科目群から集中的に講義を履修してもいいですし、異なる科目群から組み合わせて履修しても構いません。
- **演習科目***：担当教員の指導を受けながら、自分の研究を深めていきます。それまでの講義科目とは異なり、自主的かつ積極的な学習が求められます。同一担当者の演習科目を連続して履修することが原則です。また受講人数制限がありえますので、2 年次秋学期に行われるゼミ説明会への参加が必須です。
- **卒業論文・卒業研究**：大学での勉学の集大成となります。日本語、英語、その他の外国語を駆使し、文献収集と解読、実地調査などを行い、卒業論文にまとめていきます。

※この研究コースを副専攻として選択する場合、FGS 開講の演習、卒業論文･卒業研究は履修できません。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして履修計画を立てましょう

①東南アジアの遺跡について文化・歴史について深く学びたい

導入科目	東南アジア研究概説 A，BASICS OF SOUTHEAST ASIAN STUDIES B，フィールドワーク論
コア科目	東南アジア考古学，　東南アジア史（近現代）1・2，　東南アジアのイスラームと社会，アジア文化遺産研究，アジアの環境と開発、特講（アジアの文化と社会），特講（現代アジアと宗教），特講（文化財保存と国際協力）
演習*	アジア研究 A-1・2，もしくは，アジア研究 C-1・2

②ASEAN 地域と日本の様々な協力関係(経済・政治・人的)について興味がある

導入科目	東南アジア研究概説 A，BASICS OF SOUTHEAST ASIAN STUDIES B,フィールドワーク論
コア科目	朝鮮半島の社会と文化，アジアの環境と開発，NGO と社会運動の人類学，国際協力論 1・2，特講（人の移動と在日コリアン），国際政治経済論 2，アジアとグローバル企業，特講（通地域研究）
演習*	アジア研究 B-1・2，もしくは，アジア研究 D-1・2

③アジア地域の植民地化・脱植民地化の過程と諸影響について幅広く学びたい

導入科目	グローバル・ヒストリー，東南アジア研究概説 A，BASICS OF SOUTHEAST ASIAN STUDIES B,南アジア研究概説
コア科目	東南アジア史（近現代）1・2，アジアとポルトガル語圏，南アジアの社会と政治，特講（人の移動と在日コリアン），アジアの人権問題，アジアとグローバル企業，比較政治学 1・2
演習*	アジア研究 C-1・2，もしくは，アジア研究 E-1・2

*演習科目は入学年次によって必要な単位数が異なる。必ず履修要覧を参照すること。

(7) 中東・アフリカ研究コース

【中東・アフリカ研究の魅力】

中東やアフリカは日本からみると、地理的にも文化的にも遠い地域に感じられるかもしれません。しかし実際には、イスラームは国際社会の広い地域に様々な影響を与えており、また経済的には資源の調達先、成長が見込まれる市場、そして開発援助の供与先としても、日本との関係は決して希薄ではありません。そうした観点から中東・アフリカ地域について研究することは、大いに意義のあることでしょう。ただ、もう1つ別な観点があることも忘れてはなりません。文化的、社会的に大きく異なっているからこそ、それを学ぶことではじめて気付かされる見方、考え方があるはずで、ひいては自文化を相対化し、あらためて見つめ直す格好の契機となるのではないでしょうか。中東やアフリカと真摯に向き合えば、そうした醍醐味を実感できるに違いありません。

【科目の構成と概要】　※副は副専攻として履修する場合を指します

➢ **開講元と履修者数制限についての注意**

本研究コースは外国語学部開講の科目も少なからず含んでいるものの、多くの科目は総合グローバル学部開講の科目です。後者のうち演習科目はとりわけ、履修できる外国語学部生の枠には限りがあります。演習科目の履修が必修となる第二主専攻として選択する場合、とくに注意してください。

➢ **導入科目**（1年次～；コース共通導入科目を含めることも可能）

中東、アフリカを学ぶ上で基礎となる科目として、本研究コースでは8科目を導入科目に指定しています。このうち「中東研究概説」と「アフリカ研究概説」のいずれか2単位を履修することを勧めます。

➢ **コア科目**（2年次～）

特定の分野ごとに専門的に学ぶための科目群です。大半の科目は、主たる対象地域を中東北アフリカ、サハラ以南のアフリカのいずれかとするものです。また、分野別にみると、歴史、宗教、芸術・文化、政治、経済、社会などを扱う科目が揃っています。対象地域や分野を参考に、自身の興味・関心を踏まえて計画的に履修し、問題意識を明確にしていくよう心がけてください。

➢ **演習科目**（3年次～；副必須ではないが外国語学部開講の演習なら履修も可）＊

少人数制・参加型の専門的な授業で、大学における学問のハイライトといっても過言ではありません。担当教員ごとにテーマが設定され、文献の輪読、発表、ディスカッションなどをおこなう、主体的で密度の濃い学びの場です。3年次から4年次にかけて同一教員の演習を継続して履修することが原則です。また受講人数制限がありえますので、2年次秋学期に行われるゼミ説明会への参加が必須です。

➢ **卒業論文・卒業研究**（4年次；副履修不可）

自身が履修する「演習科目」の担当教員の指導を受けながら、大学4年間の集大成としての研究成果を作成します。卒業論文の場合、先行研究のレビューおよび問題設定により示した方向性にしたがい、資料収集、現地調査で材料を得て、それを自分なりに考察・分析して結論へと導くといった作業になるでしょう。真剣に取り組んで完成させたときの達成感は、他では味わえない格別のものであるはずです。

※この研究コースを副専攻として選択する場合、FGS開講の演習、卒業論文・卒業研究は履修できません。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう。

中東・北アフリカや西アフリカの開発と社会を中心に学ぶ場合（第二主専攻での履修）の一例

導入科目	中東研究概説、アフリカ研究概説、環境と人間
コア科目	国際政治経済論（経済学的アプローチ）1・2、グローバル化と発展途上国、アフリカ社会論、イスラームとジェンダー、アフリカ社会経済論、フランス近現代史研究、フランス語圏アフリカの社会と経済、北アフリカ社会開発論、アフリカ開発論
演習科目*	演習（北アフリカ社会経済）1・2

*演習科目は入学年次によって必要な単位数が異なる。必ず履修要覧を参照すること。

(8) 国際政治論研究コース

【国際政治論研究コースについて】

現代、特に冷戦終結後の世界は、さまざまな対立軸が生起するとともに、国家以外のアクターが重要度を増しているなど、きわめて複雑化してきています。本コースは、このような複雑な世界の動向を、国際政治・国際関係論を中心に理論面から理解することを目的とします。したがって1・2年次の早い段階から基礎理論の習得が重要になりますが、外国語学部生がこの研究コースで学ぶ意味は、各自が第一主専攻とする地域と関連づけて研究を進めていくことにあるでしょう。

なお、この研究コースは、総合グローバル学部の科目を中心に構成されています。特に第二主専攻として履修する場合には、演習科目に人数制限が課せられている、必修とされる前提科目があるなど、いくつかの制約があります。その点にも注意して履修計画を綿密に立てることが不可欠です。

【国際政治論研究コースの科目群】

- **導入科目**：国際関係論、政治学、社会学など社会科学の基礎理論を学びます。世界を読み解くツールとしての理論をしっかりと自分のものとし、コア科目履修に備えましょう。
- **コア科目**：「理論・国際系」「地域系」2つの科目群から構成されています。どちらから何単位とらなければならないといった履修上の制限はありませんが、両科目群はいわばそれぞれ「総論」と「各論」に位置づけられるものですので、両者をバランスよく履修し、理論から分かることと個別事例から見えてくることを複眼的に把握していくのが望ましいでしょう。
- **演習科目***：担当教員の指導を受けながら、自分の研究を深めていきます。講義科目と比べ能動的な学びの比重が増します。同一担当者の演習科目を連続して履修することが原則です。また受講人数制限がありえますので、2年次秋学期に行われるゼミ説明会への参加が必須です。
- **卒業論文・卒業研究**：大学での勉学の集大成となります。履修している演習科目の担当教員の指導を受けながら、資料の収集と分析、現地調査などの結果に自らの考察を加え、研究成果としてまとめます。

※この研究コースを副専攻として選択する場合、FGS開講の演習、卒業論文・卒業研究は履修できません。

【履修モデル】　以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう

①国連など国際機関の機能について体系的に学びたい

導入科目	国際関係論入門、国際関係論概説、グローバル化と政治学
コア科目	国際政治学、THEORY OF INTERNATIONAL POLITICS、グローバル・ガバナンス論3・4、 INTERNATIONAL ORGANIZATION: THEORY AND PRACTICE、 ADVANCED STUDIES(INTERNATIONAL ORGANIZATION B・C)
演習*	演習（グローバル・ガバナンス論）1・2

②BRICS諸国の政治発展について学びたい

導入科目	国際関係論入門、国際関係論概説、グローバル化と政治学
コア科目	比較政治学1・2、グローバル化と発展途上国、国際政治経済論（経済学的アプローチ）1・2、 中国政治外交1・2、ブラジル政治概論、ロシア政治・外交A-1・A-2
演習*	演習（比較政治学）1・2　または　演習（ロシア政治・外交）1・2

③領土紛争について各国はどのように対処してきたのか学びたい

導入科目	国際関係論概説、グローバル化と政治学、平和学
コア科目	国際政治学、外交政策1・2、日本外交論、紛争解決、平和研究、中国政治外交1・2、 ロシア・ユーラシアの国際関係A・B、ヨーロッパ政治経済論
演習*	演習（外交政策）1・2　または　演習（EUと紛争解決）1・2

*演習科目は入学年次によって必要な単位数が異なる。必ず履修要覧を参照すること。

(9) 市民社会･国際協力論研究コース

【市民社会･国際協力論研究コースについて】

この研究コースでは、国家や大きな国際組織の視点から世界を眺めるのではなく、人々の生活、意識、そして行動から世界を考察します。たとえば、貧困者はどのような構造から生み出され、それを変革し自ら発展していくためにどのような試みを行っているのか、原子力発電に反対する人々は世界の現状をどのように理解し、またどのような世界を未来で実現しようとしているのか、国家によって迫害された人々、難民などある特定の国家に属さない人々はなぜそのような状態に陥り、どのような経験をしているのか、といった観点から世界を理解しようとします。

より具体的には、先住民やマイノリティの人々が置かれている状況、子どもの貧困やジェンダーの問題、部族間の衝突、増え続ける難民に対する受け入れ国の体制、大陸を問わず拡大する経済的格差、激化する気候変動と環境問題などの事象が対象となります。本研究コースでは、そうしたグローバル・イシューに対し、国家や国際機関が中心となる国際協力とは異なり、NGO や市民組織・ネットワークが国境を越えて協力する活動や運動に焦点をあて、身近な事象に対して私たちがどのように理解し、行動できるかを議論します。

【市民社会･国際協力論研究コース】

- **導入科目**：経済学、政治学、社会学、歴史学や宗教学の基礎理論を学ぶとともに、「市民社会･国際協力論研究」に関わる基礎知識を吸収します。
- **コア科目**：国際協力論、開発経済学、国際教育学などより高度な理論を学ぶと同時に、国境を越えた人間の移動、グローバル化の中の社会と文化、貧困の実態と克服への努力、途上国の教育問題、市民主導による社会運動などの実際を学びます。これらの多様な授業の履修を通して、問題関心を徐々に具体化していくことが肝心です。
- **演習科目***：担当教員の指導を受けながら、自分の研究を深めていきます。講義科目と比べ能動的な学びの比重が増します。同一担当者の演習科目を連続して履修することが原則です。なお、FGS で開講される演習には受講人数制限があるので、2 年次秋学期に開催されるゼミ説明会への参加が必須です。
- **卒業論文・卒業研究**：大学での勉学の集大成となります。履修している演習科目の担当教員の指導を受けながら、資料の収集と分析、現地調査などの結果に自らの考察を加え、研究成果としてまとめます。

※この研究コースを副専攻として選択する場合､FGS 開講の演習､卒業論文･卒業研究は履修できません。

【履修モデル】以下のモデルに従う必要はありませんが、参考にして自身の履修計画を立てましょう。

① 途上国の経済開発について体系的に学びたい

導入科目	市民社会･国際協力論概説、グローバル化と経済学 1・2
コア科目	国際経済学 1・2、国際協力論 1・2、開発経済学、グローバル化と発展途上国、 国際政治経済論（経済学的アプローチ）1・2、アフリカ社会経済論
演習*	演習（開発経済学）1・2　または　演習（国際政治経済論・経済学的アプローチ）1・2 または演習（国際協力論）1・2

② ラテンアメリカを対象地域として市民運動の意義について探究したい

導入科目	市民社会･国際協力論概説、市民が関わる国際協力、グローバル社会学
コア科目	ブラジル社会開発協力、グローバリゼーションと市民社会 1・2、グローバル化と文化 1・2、 特講ブラジル社会開発論、ラ米政治社会特論 A・B、国際協力論 1・2
演習*	演習（ラ米社会研究）1・2　または　演習（ブラジル社会研究）1・2

*演習科目は入学年次によって必要な単位数が異なる。必ず履修要覧を参照すること。